

涅槃会



先月末には大きな寒波が来ましたが、もう立春を迎えようとしています。少しずつ水仙の芽も伸び、梅のつぼみもだいぶ目立つようになりました。



さて、今月15日はお釈迦様が亡くなられた日です。涅槃会に「涅槃団子」を食べたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

涅槃団子は、お釈迦様の御遺骨を模して作られ、色も赤・青・白・黄・黒とカラフルです。

これは、仏教の五大（地、水、火、風、空）を表しているとも、釈迦の骨が5種類の色に輝いたためとも言われています。



この日、お寺では大きな涅槃図を本堂に掛けます。沙羅双樹の間に身を横たえ、たくさんのお弟子や国王、大臣、天の神々、動物たちがその死を嘆き悲しんでいる場面を描いた涅槃図。この一枚の涅槃図の中に込められた物語をちょっと垣間見てみましょう。

やさしい涅槃図絵解き

摩耶夫人の見た五つの大悪夢

さて、昨年2月の大智寺だよりでご紹介した摩耶夫人ですが、天人の五衰が現れた後、お眠りになり5つの悪夢を見ます。

第一の夢は、須弥山が崩れ、海の水が干し上がるものでした。山や海に暮らすすべての生き物が抛り所を失う夢、それはお釈迦様が亡くなることで、生き物すべてが抛り所を失うことを指していました。



第二の夢は、獅子が来て摩耶夫人の身を噛むというものでした。これは、お釈迦様が亡くなることで、摩耶夫人自身、想像を絶する痛みを負うことを示していました。

第三の夢は羅刹が刀でもって衆生の眼を奪うというものでした。羅刹は、人にとって食べてしまう恐ろしい鬼です。今お釈迦様が亡くなることで、人々は再び正しい眼を失い、迷い惑わされることを指していました。



第四の夢は諸天が大切な宝冠を失い、身に光明がなくなるというものでした。諸天とは、摩耶夫人の暮らしている天界に住む天人のことで天人たちは長寿で、日々快樂に満ち、苦しみはありません。そんな天人たちの宝冠がなくなり、光明が消えることは、とても大きな悲しみに包まれることを示しています。

第五の夢は、宝珠の幡が倒れ、如宝珠を失うというものでした。仏教の靈験によって意のままに願いをかなえることができるとされる如宝珠。お釈迦様が亡くなることで、この如宝珠の威力が失われることを指しています。

こうした5つの悪夢を見た後、摩耶夫人は涅槃図右上の方から雲に乗って下界に下りてきているのです。

大智寺だより

平成30年如月

Vol.92

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

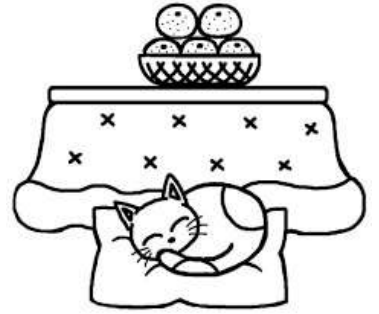
当紙は、大智寺本堂及び墓地の水小屋にてご自由にお取りいただけます。ご活用ください。

1月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

久しぶりの庭木剪定

今まで何十年と剪定をお願いしていた庭師さんが高齢で仕事をやめられ、
ここ数年庭木の剪定がストップしていましたが
あまりにも木々が暴走して乱れてきたので、新しい庭師さんを
檀家様よりご紹介いただきました。



お寺では1月下旬に書院の庭木や本堂前の槇の木、鐘楼下の金木犀や椿の垣根など整えて頂きました。
久しぶりにさっぱりとした庭木をみていると、「ああ、気持ちいい」という声が聞こえてきそうです。
ありがとうございました。

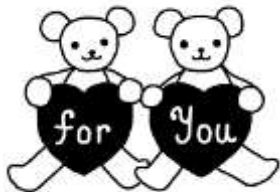
岐阜県 里山林整備事業



今年からお寺では岐阜県の里山林整備事業をご依頼することとなりました。
この事業は、地域の生活保全のため、里山林の整備・管理に必要な費用を
岐阜県が支援してくれる事業です。
ご依頼した場所は、矢の洞の東の山です。
少しずつ雑木や下枝を切って整備していただきます。
約束事は、今後10年以内に対象森林を森林以外の用途に転用しないことと
立木竹の全面伐採除去をしないことです。

年々鳥獣被害が大きくなってきている中、
少しでもお寺の環境が良くなればと願っています。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc わからないこと 質問帳 ③⑤



「遠忌 (おんき) って何？」

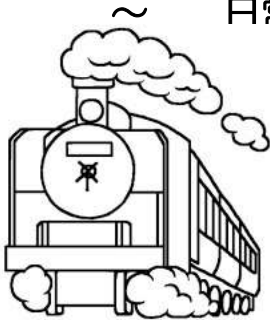
今年は、大智寺の開山様の500年遠忌にあたります。
お寺では、総代様役員様と一緒にどういふ法会にしようか検討を進めています。
「遠忌 (おんき)」という言葉は聞いたことがあっても、
あまり馴染みはないものと思います。

家族が亡くなると一周忌、三周忌と法要を重ねていきますが、
一般的には50回忌で「弔い上げ」といってご供養を終えます。
けれど、お寺では50回忌以降も法要を続けていき、50回忌以上の年忌を「遠忌」とよびます。
100回忌以上になると50年ごとに開山様の遺徳を追慕して遠忌法会を行います。
そのため大智寺では今回、50年ぶりの遠忌を迎えることとなります。
本堂の戸帳がちょうど450年遠忌の記念のものであることを思うと、趣き深いものです。

西暦1500年に、鷲見美作守保重公の菩提を弔うために大智寺が創建され、
その際、岐阜の瑞龍寺から初代住職として招かれた玉浦宗珉禅師。
たくさんのお弟子を指導され、大智寺は「玉浦派古道場」と呼ばれました。

今年10月30日は、開山500年遠忌を執り行います。
多くの御縁を受けて今なお大智寺が健在していることを
開山様に心からご報告、感謝できればと思います。

日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより

40

「 後世の大事を覚悟して 善根功德に心ざし 」

「木仏長者」（山形県に伝わる昔話より）
あるところに一人の長者がおりました。

長者は純金で作られた仏像を持っているのが大層自慢で、毎日キュッキュと磨き上げては盗まれないよう仏壇の扉を固く閉め鍵をかけていました。

さて、この長者の屋敷に一人の奉公人がおりました。

ある日、仏像によく似た木の切れ端を見つけ、拾って大切に持ち帰り、ちゃぶ台の上におまつりし毎日ねんごろに外で摘んだお花を飾り、自分のお膳をまず木ぎれの仏様にお供えしていました。

数年後、この奉公人のまじめな働きが長者の目にとまり、

長者の発案で、純金の仏様と木ぎれの仏様に相撲をとらせることとなりました。

「木ぎれの仏様が勝てば身代のすべてをゆずるが、もし負ければお前は一生ワシのもとで働くのだぞ」ハッケヨイで組み合せて、あれよあれよと純金の仏様は押されて倒れてしまいました。

長者は身代をゆずり、なげきながら純金の仏様に詰問します。

「なぜあんな木ぎれに負けた？」

「相手は木ぎれでも毎日お膳を供えてもらい、熱心に信心されて拜まれている。

オレは磨かれるばかりで信心されず、年に数回お膳を供えてもらうだけ、負けるのは当たり前だ」

インフルエンザ

インフルエンザが猛威を振るう中、立春を迎えます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、お寺では住職が携帯電話を忘れて外出すると大変です。「枕経があるから帰ってきて」の一言が伝えられず夫婦喧嘩です

携帯電話もさることながら、離れていても誰かとながっていられるのは嬉しいもの。先日お葬儀をあげられた方から「故人は、大智寺だよりを毎月楽しみにしていましたよ」と伝え聞き、お会いしたことはないその方とこの紙一枚でつながっていたようで、書き手冥利に尽きる気持ちになりました。

ノートルダム清心学園理事長の渡辺和子先生がアメリカで修練していた時のこと。割り当てられた配役は配膳係で「つまらない仕事」と思いながら皿を並べていたそうです。すると修練長から「今どういう気持ちで皿を並べていますか。やがてそこに座る一人ひとりの幸せを祈りながら並べれば、同じ時間が有意義になります」と注意を受けました。自分の祈りが、やがてそこに座る人に届くか届かないかではなく、自分の時間をどう生きたか、時間の使い方は命の使い方なのだと、その時学ばれたそうです。

私もこれまで以上に、この大智寺だよりを手取るお一人おひとりの幸せを祈りながら書きたいと思えます。声が届こうが届かまいが、反応があるうとなかろうじ。

シリーズ いますぐできる精進の味

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

ほっこり温まる 大根ポタージュ

- ① 大根3分の1本を小さく切って、湯がいて柔らかく火を通す。
- ② そのままほっておき、冷めたらミキサーでなめらかにする。
- ③ 鍋になめらかになった大根と水 200cc、牛乳 200cc を入れ温める。
- ④ コンソメと塩、ブラックペッパーで好みの味にする。



大根の量も牛乳や水の量も、適当です。
寒い朝にポタージュスープがあると嬉しいので、大根でヘルシーに作ります
たくさん大根がある時は、大根の量を増やしても大丈夫です。
大根の煮物もおいしいけれど、こんな料理も目先が変わって面白いかも。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

2月25日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

1月写経会 備忘録

朝方雪がちらつき、冷え切った1月の写経会。お越し下さりありがとうございました。今回は「んまわし」という落語を楽しみました。みんなが食べたいたこ焼きですが、最後に煩惱の火で燃えてしまいましたね(笑) 新年心を引き締めて「控えめに控えめに」ですね。今日は叶匠寿庵の柚子入りあもで一服しました。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人

第十一話 「拝火バラモン」



お釈迦様が晩年、好んで説法されたグリッドラクータ山、頂きに残る香堂跡は今も仏教徒にとって最高の聖地の一つで四六時中、香の煙が絶えることがないそうです。

その眼下に広がる密林は、2500年前マカダ国の首都としてにぎわった大きな街でした。

さて、その街で雨季直前のむんむんとする道を、薄汚れた袈裟をまとった沙門が腕を擡げてやってきます。

ちょうど拝火教のバラモンさんがそれを見かけ「あれが釈迦という者か。ちょっといじめてみよう」と思い話しかけます。

「これは托鉢の方、バラモン教の三大聖典を会得した、生まれが高い方であれば朝食を供養しましょう」お釈迦様は答えます。

「人は生まれや家柄によってではなく、いかに生きているかによって徳の高さが決まるのです。過去、現在、未来を正しく知ることができる聖者こそ、真のバラモンといえるのです」

当時のバラモン教は、その聖典の文句を唱えるだけで功德があるとされていたため、お釈迦様の言葉に大変関心した拝火バラモンさんは、ぜひ朝食を供養したいと申し出ますが「私は、このような言葉だけで供養は受けません」と断られてしまいます。

やがて、雨季に入り、祇園精舎に留まっておられたお釈迦様の元で、拝火バラモンさんは出家をしました。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。